

2024年2月19日

各位

東京都千代田区麹町三丁目2番4号
会社名 株式会社スリー・ディー・マトリックス
代表者名 代表取締役社長 岡田 淳
(コード番号：7777)
問合せ先 取締役 新井 友行
電話番号 03 (3511)3440

自己組織化ペプチド技術を用いた、炎症性腸疾患等に関する特許取得のお知らせ

株式会社スリー・ディー・マトリックス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岡田淳）は、学校法人久留米大学および当社が出願しておりました炎症性腸疾患^{*1}等に起因する腸管の治療及び予防を目的とする自己組織化ペプチド^{*2}を含有する医薬組成物を広く保護する特許について、2024年2月14日付けにて、日本における特許が成立したことをお知らせいたします。

当社は、2023年6月8日に開示の通り、自己組織化ペプチド技術を用いた「ピュアスタット」について、群馬大学医学部附属病院にて炎症性腸疾患領域における効果確認のための医師主導特定臨床研究を実施中ですが、本特許は自己組織化ペプチドによる炎症性腸疾患治療のためのプラットフォーム技術を保護する特許と位置付けております。

炎症性腸疾患の市場規模は、グローバルで数兆円と推計されております。当社は、米国において、直腸の粘膜炎等の治癒に対する製造販売承認を取得しており、これは炎症性腸疾患領域への足掛かりとなります。今後は、日本および欧州において、現在進行中の医師主導特定臨床研究に加えて複数の研究を行い、早期に Proof Of Concept (POC) を取得することを目指します。POC を取得した暁には、本格的な開発を開始する計画です。

なお、本件による通期の業績及び中期経営計画への影響はございません。

【発明の名称】 腸管における潰瘍または瘻孔の治療または予防のための医薬組成物

【特許番号】 特願 2020-551105

【特許権者】 学校法人 久留米大学、株式会社スリー・ディー・マトリックス

【本特許の保護範囲】

<対象疾患>

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、ベーチェット病、単純性潰瘍を含む腸疾患。

<自己組織化ペプチド>

当社が主力製品として事業展開する吸収性局所止血材『製品名：ピュアスタット』の RADA16 配列に限定されることのない幅広いアミノ酸配列。

<他剤との併用>

既に臨床において使用されている抗炎症剤や副腎皮質ステロイド、免疫抑制剤、腸管粘膜保護剤、血流促進剤。

<細胞との併用>

腸管幹細胞、造血幹細胞、脂肪幹細胞、間葉系幹細胞。

※1：炎症性腸疾患（IBD：Inflammatory Bowel Disease）

IBDは、消化管に炎症が起こる慢性的な疾患の総称で、主な病気に、クローン病と潰瘍性大腸炎が含まれます。クローン病は、消化管の至る所に発生し、炎症が深い層から浅い層まで、また、口から肛門までの消化管全体に発生することがあります。一方、潰瘍性大腸炎は、大腸に炎症が起こるもので、直腸から始まり、結腸（大腸）にかけて広がることが多く、また、炎症が表面的な層に限定されていることが多い疾患です。炎症性腸疾患（IBD）の原因は明確でなく、遺伝的、環境的、免疫学的な要因が関与していると考えられており、一度発症すると再燃と寛解を繰り返します。主な症状は、腹痛、下痢、便秘、腹部膨満感、吐き気、嘔吐、疲れ、体重減少などで、重度の場合には、貧血や栄養不良も見られることがあります。治療には、抗炎症薬、免疫抑制剤、生物学的製剤、栄養補助療法、外科的手術などがありますが、現在完治させる確実な治療法はありません。

※2：自己組織化ペプチド

生理的条件下に置くとペプチド分子同士が規則的に集合、ナノファイバーを形成してゲル化するペプチド。本特許明細書中の自己集合性ペプチドと同義。

以上